しっとる？ 岐阜ヒストリー

その五

岐阜市は斎藤道三や織田信長など名高い戦国武将が活躍した舞台です。道三・信長は何故岐阜市を選んだのでしょうか？
英雄たちが欲しがった岐阜！ その歴史を作ってきた武将や武士団、彼らの知られざる活躍を一緒にひも解いていきましょう。
身近なところにある歴史が、新たな気付きにつながるかもしれません。

堀氏・奥田氏と岐阜市

堀秀政と奥田（堀）直政はいずれも茜部出身の武将で、子孫は近世大名として幕末まで続きます。令和6年（2024年）に『茜部郷土史』（以下『郷土史』）が刊行され、彼らの岐阜市での活動がわかってきました。『郷土史』などを参考に、堀氏・奥田氏の歴史や岐阜市に残る遺産などについてみていきます。

岐阜市ぎふ魅力づくり推進部
文化財保護課
特任研究員 **内堀 信雄**

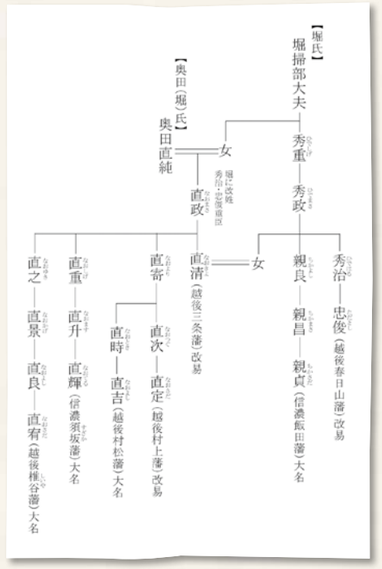
プロフィール
昭和34年　栃木県宇都宮市に生まれる
昭和61年　名古屋大学大学院文学研究科（考古学）卒業
岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査などを担当。

主な著書
『東海の名城を歩く　岐阜編』（共編、吉川弘文館、令和元年）
『戦国美濃の城と都市』（高志書院、令和３年）

1 堀氏の歴史

来年の大河ドラマ「豊臣兄弟！」主人公豊臣秀長の兄秀吉に仕えた岐阜市出身の武将の一人に堀秀政がいます。『寛政重修諸家譜』（以下『諸家譜』）には秀政の曽祖父が斎藤道三に仕え、茜部上・下両村を知行、のち数度の軍功があったと書かれており、この頃に武士として身を立てたのだろうと推定されています（『郷土史』）。

秀政は1553年上茜部の生まれで、織田信長ついで羽柴（豊臣）秀吉に仕えます。1585年の紀伊攻めや四国攻めなどの手柄により、同年越前国北庄城主（福井県福井市）となり18万850石を領しますが、1590年小田原攻めの際陣中で病没してしまいます。跡を継いだ息子の秀治は1598年に越後国春日山城（新潟県上越市）へ移り45万石を領します。秀治の息子忠俊は1607年に福島城を新築して移りますが、1610年に御家騒動により改易処分となります。秀治弟の親良は越後国蔵王堂城主4万石（新潟県長岡市）、下野国真岡城主1．2万石（栃木県真岡市）を経て下野国烏山城主2．5万石となります。その子親昌は信濃国飯田城主2万石（長野県飯田市）となり、この家系が幕末まで続きます（図1）。



■図１ 堀氏・奥田氏系図

2 市内に残る堀氏の遺産

堀氏は上茜部城を居城としたと伝えられ、本郷2丁目には茜部本郷自治会により「上茜部城跡堀秀政生誕之地」の石碑と説明板が建てられています（写真1）。城の所在地については石碑周辺のいくつかの場所が推定地になっています。

■写真１　堀秀政生誕地石碑

前回もご紹介した立政寺には1571～72年に寺が織田信長に軍勢からの保護を受ける制札を要望した際、仲介した父堀秀重のもとで秀政が活動していることを示す文書や、寺が信長に贈り物をした時の信長の礼状と秀政の副状が残されています。

3 奥田氏の歴史

奥田氏は斯波氏の一族で、尾張国中島郡奥田（愛知県稲沢市）に住んだことから奥田と称します。直政祖父の時に下茜部へ移り、父七郎五郎（直純あるいは利直）は小城を構えます。当時勢力のあった堀氏の配下となり、姻戚関係を持ち生まれたのが直政です。堀秀政とは従弟になります（図1）。直政は堀秀政の重臣で、1583年の賤ケ岳の戦いにおいて柴田勝家の「金の御幣の馬印（大将の所在を示す道具）」を奪い取るという活躍をみせ、秀政から堀の姓を与えられます（『諸家譜』）。秀政没後は息子の秀治に仕え、1598年秀治の移封に伴い越後国三条城（新潟県三条市）を居城とし5万石を領します。その後、直政の子孫は3系統（越後国村松藩〈新潟県五泉市〉3万石、越後国椎谷藩〈新潟県柏崎市〉1万石、信濃国須坂藩〈長野県須坂市〉1万53石）が大名として存続し明治維新を迎えます。

4 市内に残る奥田氏の遺産

奥田（堀）直政の父が城を構えた「茜部ささ屋敷」（『諸家譜』）について『郷土史』では「更屋敷」（今の茜部茜町付近）あるいは「ささ」は「笹」の意味で旧木曽川主流（現境川）付近と推定されています。

茜部神社は奥田（堀）直政ら堀一党の氏神です（写真2）。神社には直政が神社造営にかける思いを述べた書状（1592～1598年頃）や、拝殿造営費用の見積もりを依頼した息子直次の書状（1608年以降）などが伝えられています（『郷土史』）。

■写真２　茜部神社

また当社には「きしん　奥田勝左衛門」「茜部八幡宮」の文字が刻まれた笏谷石製の狛犬一対（岐阜市指定文化財）が伝えられています。笏谷石は福井市付近で採れることから、堀秀政か息子秀治が越前北庄城主だった時代に奥田氏一族の勝左衛門が寄進したもので、奥田（堀）直政書状との関連も考えられます。

このように茜部出身の堀秀政や奥田（堀）直政とその子孫たちは、越前国（福井県北半）、越後国（新潟県）、信濃国（長野県）へと広がり、各地で今に続くまちづくりを行いました。

＊次回は2026年2月号です。
お楽しみに

＊〈参考文献〉◉続群書類従完成会1965『新訂寛政重修諸家譜　第12』◉堀直敬著・堀家の歴史研究会発行1967『堀家の歴史』◉茜部自治会連合会2024『茜部郷土史』